

森林作業道の維持管理における取組と課題について

- ・被害木整理や被害跡地造林の施工地が奥地森林へと進むにつれて、森林作業道の延長が増加してきている。被災森林では、大雨や融雪水が堆積地に集中し、崩壊土砂とともに埋まっていた枝条等が流出することにより、下流の排水管が閉塞して森林作業道が破損する等の被害が発生。こうした水処理にかかる対策として、洗越工（河床路）、路面排水工の設置を検討。
- ・今後は経過観察を継続し、必要に応じて改良するなど現地状況に応じた施工方法を模索する。

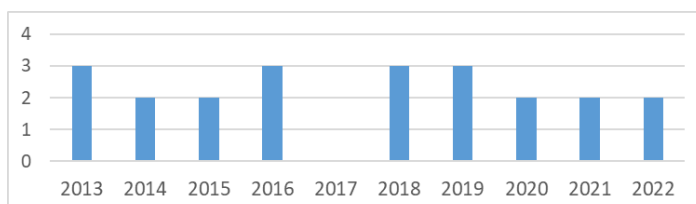
森林作業道の作設中の様子



2022年8月豪雨による被災状況（左：上流部、右：下流部）



降雨量 50mm/日を超えた日数（過去10年間）



厚真町では50mm/日を超える降雨が年間2~3日発生している。

→排水等対策が必須な状況。

（気象庁データを使用）

今後の取組予定

- ・洗越工（河床路）の改良（下流部水叩きの設置）
- ・路面排水の改良（丸太本数増やす、上流部をV字に敷設）
- ・排水処理は明渠排水（洗越工）と丸太組排水を基本とし、暗渠排水は最小限の設置とする。
- ・暗渠排水を設置した上流部に丸太杭を数か所設置し、枝条等の流出による閉塞・決壊を防止する。